

小学部だより

筑波大学附属

桐が丘特別支援学校

小学部通信第 11 号

2018. 1. 31. 発行

校舎の改築工事が始まり、校庭のイチョウやサクラの木がどんどんなくなっていくさびしさと、いよいよ新しい校舎が建つのだという期待が入りまじり、複雑な思いを抱いている子も少なくないようです。何事も、終わりがあれば始まりがあるのです。学校生活も、新しい始まりに向けて準備していきましょう。



いのちをいただく

「牛を解く人がいなければ、牛の肉はだれも食べられません。…みいちゃん
いのちを解く、そのときがきました。…そのとき、みいちゃんの大きな目から、
なみだがこぼれおちてきました。坂本さんは、牛が泣くのをはじめてみました。
…孫は泣きながら『みいちゃん、いただきます』『おいしかあ、おいしかあ』い
うて、食べました。」

12月5日の合同道徳で、『いのちをいただく みいちゃんがお肉になる日』
(原案 坂本義喜)の話をもとに、日々いただいている命について考えました。
児童の感想の一部を紹介します。



- ・みいちゃんが肉にされてかなしかった。(小1児童)
- ・女の子が「みいちゃん、ごめんね。」と言っているところがかなしかった。(小1児童)
- ・牛が肉にされてかなしかった。(小2児童)
- ・(坂本さんは) やりたくないと思ったけど、でも頑張ってやった。(小2児童)
- ・かなしいけど、(肉にされるために) 撃たれるのもしょうがないのだなという気持ちもある。(小4児童)
- ・牛とかの動物から命をもらうということを改めて感じた。(小4児童)
- ・生き物の命の大切さを感じた。(小5児童)
- ・普段何気なく食べているお肉やお魚でも、命をとられている生き物にとっては重大なことなので、大切にいただきたいと思った。(小5児童)
- ・みいちゃんが肉にされるのはかなしいけど、生き物は何かを食べないと生きていけないので、しょうがないのかなと思った。(小5児童)
- ・せっかくの牛の命だから、かなしいはかなしいけど、みいちゃん本人もおいしく食べてほしいのではないかなと思った。(小5児童)
- ・いつもお肉とかを「おいしい、おいしい」といただいているけど、そのお肉とか生き物の命の大切さ、生きている命を改めて大切にしないとかなと思った。(小6児童)
- ・食べ物を大切にしないといけないと思った。肉とか魚とかいろいろな食べ物に命がある。誰かの命が死んで誰かの命を食べているから、命や食べ物を大切にしないとかなと思った。(小6児童)
- ・いつも食べているお肉とかお魚の命をいただいているのだなと思って、なるべく残さないように食べたいなと思った。残したらその命が無駄になってしまうので、大切にしないといけないなと思った。(小6児童)